

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

夢と希望のある神奈川を



<http://www.araikinuyo.jp>

6日には「すべての拉致被害者救出を！」の催し 12月10日から北朝鮮人権侵害問題啓発週間

核兵器やミサイルの開発、独裁的な政治など隣国・北朝鮮の動向は世界の平和、日本の安定などへの脅威となっていますが、日本にとってゆるがせにできないのが1970年代から1980年代に行われた北朝鮮工作員などによる同国への日本人の拉致問題です。日本では毎年、12月10日から16日に「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」を迎えます。1997年3月に拉致被害者家族会、1998年4月には北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会が設立されるなど国内各所で「拉致被害者の救出」を掲げた活動が展開されており、2006年6月には「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が施行され、同週間も定められました。2013年1月には政府拉致問題対策本部が設けられました。

13歳で拉致被害に遭った横田めぐみさんの家族が在住する神奈川県や県議会議員有志の会などでも同法の施行を受け拉致問題へ活発な取り組みを展開しています。特徴的なのが「特定失踪者パネル展示会」を県内の市町村で毎年開催している（昨年度は52回）ことです。特定失踪者は、政府が認めた拉致被害者（17人）以外に、「拉致されたかもしれない」との民間団体の調査会への届け出により調査されているケースで全国では470人、このうち神奈川県ゆかりのケースでは15人に上るといいます。今年度は新型コロナウイルスの影響で9月から5回開催されたのみとなっています。また映画「めぐみ」の上映会も多く行われています。黒岩祐治知事が2018年から「北朝鮮による拉致被害者を救出する知事の会」の会長を務め、国に要望書を提出。「北朝鮮に拉致された日本人を救う神奈川県議会有志の会」も2011年から43都道府県の会を取りまとめた全国協議会の事務局を置き、会長県を務めるなど意欲的な取り組みをみせています。

12月6日には横浜の新都市プラザ（横浜駅東口地下2階そごう横浜店前広場）で県と横浜市主催の「すべての拉致被害者救出を！」をテーマとする写真・パネル展、上映会などが開かれます。また同日14時から16時には、桜木町駅前前で県議会有志の会による、拉致被害者全員の帰国を求める街頭署名活動を行います。



2019年12月の街頭署名活動



コレが言いたい!

北朝鮮は、2002年9月の第1回日朝首脳会談において、初めて拉致を認め謝罪し、同年10月には5人の拉致被害者が24年ぶりに帰国しました。しかしながら、残りの安否不明の方々については、今なお北朝鮮に囚われたままの状態、現在も救出を待っています。帰国を待ち望むご家族は高齢化が進んでおり、一刻の猶予もありません。我々県民が出来る事は、一人ひとりが「拉致は決して許さない。そして一日も早く全ての拉致被害者を取り戻す」という強い決意を持ち続け、拉致問題を風化させない事です。

今月のひと言

11月25日から12月17日まで第三回定例会後期が開催されています。福祉施設におけるマスクや消毒液の購入や薬局事務員への慰労金など新型コロナ対策費を含めた309億2500万円の補正予算が提案されています。

磯子 あれ? これ? 真照寺 (磯子区磯子)

真照寺の開山は不明ですが、寿永元(1182)年に源頼朝の家臣で、磯子の領主であった平子平右馬丞たいらこへいまのじょう有長ありながによって中興されたと伝えられます。

有長は、平家追討戦に参加する際に不動明王を祀り、武の神毘沙門天を己の守護仏として祀るお堂も建てました。本堂に安置されている毘沙門天像は、平成20年に横浜市の指定有形文化財の指定を受けました。また、令和元年11月に木像阿弥陀如来像(高さ約50cm)両脇侍像(高さ約70cm)が市の指定有形文化財に指定されました。三体の像は平安時代から鎌倉時代に移行する時代のものと推測され、当時の仏師達の実態を知る上で、貴重な資料であると評価されました。

令和3年1月23日～3月21日まで、横浜市歴史博物館(都筑区)に於いて特別展「横浜の仏像」展が開かれる予定で、これに真照寺所有の阿弥陀如来像と毘沙門天像も展示されます。

地域の子供たちが交通事故や犯罪に遭わないようにと住職が願いを込め、昨年6月14日「令和地蔵」を建立し、開眼式がおこなわれました。

参考:磯子の史話、住職のはなし



令和地蔵

活動報告

11月18日(水)、所属する産業労働常任委員会で県内視察を行いました。

最初の視察場所は、毎年10万人が訪れる中山まつりが開催される「中山商店街」。今年は新型コロナにより開催は中止となりましたが、県の補助金を利用した商店街のプレミアム商品券は僅か3時間で完売するなど、コロナ禍の中、商店街が一丸となって活性化に取り組んでいます。

2カ所目は、昨年の台風15号で被害を受けた金沢区の横浜マーチャンダイジングセンターで台風の復興時の支援策や新型コロナ対策について意見交換を行いました。



あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/株メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- 議会運営委員会委員
- 予算委員会委員長
- かながわ自民党女性議員局長

